

主な内容

- 附属病院副院長就任のご挨拶
- 新任教授のご紹介
- 患者サポートセンターのご紹介

表紙：矢巾附属病院 小児病棟「もりもり広場™」

Iwate Medical University Hospital News

地域医療連携だより

2020年4月号



岩手医科大学附属病院



内丸メディカルセンター

ご挨拶

附属病院 副院長就任のご挨拶

岩手医科大学附属病院 看護部

看護部長 佐藤 悦子



2020年4月1日付けで、岩手医科大学附属病院の副院長の任を新たに拝命いたしました佐藤悦子と申します。この重責を全うすべく誠心誠意努めさせていただきます。

日本は2025年に、団塊の世代である75歳後期高齢者の人口層ピークに達するといわれ、厚生労働省が掲げている地域医療構想に基づく取り組みが行われております。岩手県、そして私たちは5年早い2020年、今まさに、そのピークに直面しています。

その中で当院は、地域の基幹病院として経済規模や生活環境など地域性を考慮しながら、「地域との連携」、「患者さんと地域の暮らしとの連携」、「院内の多職種との連携」の役割を担い、治し支える病院や在宅復帰に向け関わる施設・行政と連携していく必要があります。

2018年には本学看護学部の先生方の研究に患者サポートセンターの入退院支援看護師らとともに参加し、岩手県立宮古病院・岩手県立釜石病院の看護師の皆様のご協力のもと、iPadを活用し顔の見える看・看連携に取り組んでまいりました。その過程で、医療を受ける場所が変わっても、看護の質を維持しつつ提供していくためには、いかに情報共有を行い、患者・ご家族の困りごとに焦点を当て、途切れないケアがQOLに良い影響をもたらすかを実感しました。

研究としては終了しておりますが、ここで連携した関係性を大切にして、ネットワークシステムを活用した看・看連携を遠隔医療の一つとして発展できればと考えております。

移転後、患者獲得に向けた医師・看護師・コメディカルの方々の尽力で、7対1病棟は90%前後の稼働率を維持する状況にあります。不意の入院や入院期間の短縮が求められる時勢の中で、治療やケアにさまざまな不安を抱きながらも、退院や転院せざるを得ないこともあります。多職種協働・患者さんの思いを尊重した支援を行うべく、患者サポートセンターの入退院支援看護師を23名（矢巾20名、内丸3名）配置しました。4月からは入院前面談の対象診療科を拡充していく予定であり、現在看護師たちは入退院支援に必要な知識や技術を習得中です。意欲ある看護師たちの学びが、入退院・転院される患者さんに対して、よりきめ細かい支援へと結びつくことを期待しています。

そして、患者さんやご家族、地域の方々から信頼を得られるよう、命に寄り添う看護を提供するとともに職員のやりがいや達成感を感じることでできる組織を目指してまいります。

今後ともご支援ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

ご紹介

脳神経内科・老年科教授のご紹介

医学部 内科学講座脳神経内科・老年科分野

教授 板橋 亮



平素より岩手医科大学医学部内科学講座脳神経内科・老年科分野の診療にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。2019年7月1日付けで、内科学講座 神経内科・老年科分野教授を拝命し、加えて、9月の矢巾新病院移転にあわせて脳卒中センター長を拝命しました、板橋 亮（いたばし りょう）でございます。

私は2000年に東北大学医学部を卒業し、一般内科研修の後、国立循環器センター内科脳血管部門のレジデントとなりました。その後、仙台の広南病院に開設された脳血管内科にて脳卒中診療を実践する場をいただき、ひたすら脳卒中の臨床をしておりました。その間、脳神経血管内治療専門医を取得し、東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学において急性期脳梗塞における発語失行の症候画像連関研究で博士号を取得いたしました。このように私のキャリアは、ほぼ「急性期脳卒中の臨床」で占められます。

急性期脳梗塞治療の進歩は目覚ましく、t-PA静注療法だけではなく、主幹動脈急性閉塞例に対する血栓回収療法のインパクトは非常に大きなものがあります。これら急性期医療の質の向上と均霑化は重要であります。岩手医大は矢巾移転を機に脳卒中ケアユニットを整備し、加えて、前述しました血栓回収療法施行体制も平日の時間限定ではありますが稼働を開始しております。

昨年4月の地域連携だよりで当教室科長前田教授より今後の脳神経内科・老年科分野運営に関して皆さまにご挨拶いたしました。当教室は初代教授東儀英夫先生、前任教授寺山靖夫先生の時代を通じて、脳卒中、パーキンソン病、認知症、頭痛等の脳神経 common disease を重要視してまいりました。私の使命は、前述の急性期診療に加えて前教授寺山靖夫先生が進めてこられた脳卒中臨床研究を発展させ、脳卒中をサブスペシャリティとする脳神経内科医 stroke neurologist の育成を通じて、岩手県の脳卒中死亡率を低下せしめる事と考えております。

脳卒中の予防には高血圧の治療、禁煙、脂質コントロールが重要ではありますが、万が一発症してしまった場合は、迅速な専門医受診がますます重要になった時代と言えましょう。今後、脳卒中センターの体制整備をさらに進め、血栓回収療法施行体制を拡大し、地域の医療にさらに貢献していく所存でございます。

初めての大学病院勤務で、これまで20年間の「リズム」とのずれを合わせていくのに四苦八苦しております。今後とも皆様のご指導およびご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



患者サービスの向上および地域医療連携の更なる推進を図るため、矢巾附属病院と内丸メディカルセンターに患者サポートセンターを設置致しました。患者さんの相談窓口を一元化し、他施設から患者紹介窓口や患者さんの入退院サポート、医療福祉相談を行っています。本号では患者サポートセンターの組織・業務についてご紹介します。

組織紹介

患者サポートセンターは、附属病院の移転を機に「地域医療連携センター」と「医療福祉相談室」が一体となった新たな組織で 矢巾新病院と内丸メディカルセンターの両院に設置されました。入退院支援部門、地域医療連携部門、医療福祉相談部門を3つの大きな柱として、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務員が連携して患者サービス向上と関係施設の皆様との連携の推進に努めて参ります。

スタッフ紹介

- センター長 森野 禎浩 教授（内科学講座循環器内科分野）
- 副センター長 小原 航 教授（泌尿器科学講座）
- 副センター長 房崎 哲也 特任准教授（内科学講座循環器内科分野）
- 看護師長 岩泉 康子（矢巾附属病院）
- 看護師長 齊藤 典子（内丸 MC）
- 医療福祉相談室長 近藤 昭恵
- 地域医療連携センター事務室長 青木 慎也
- 看護師 23 名（矢巾附属病院 20 名 / 内丸 MC3 名）
- 医療ソーシャルワーカー 16 名（矢巾附属病院 15 名 / 内丸 MC1 名）
- 難病診療連携コーディネーター 2 名
- 事務員 17 名（矢巾附属病院 11 名 / 内丸 MC6 名）
- 薬剤師、栄養士（※入院前面談時、連携し支援を行っています。）



患者サポートセンターの業務

紹介窓口 ・ 地域連携

地域医療連携に関すること

- 患者紹介の受付（新患）
- 広報誌の発行
- セカンドオピニオン受付
- 懇談会、ネットワーク会議等の企画
- 地域連携パスの運用
- コールセンター対応（医療機関専用） 等

地域医療連携部門では「紹介窓口」として、矢巾附属病院と内丸メディカルセンターで事前のFAXによるご紹介を受け付けております。診療科によって紹介先が異なっておりますので、同封の外来担当医表もしくは当院ホームページをご覧ください。ご不明な点がございましたら当センターまでお問合せください。紹介窓口以外にも医療機関専用のコールセンターの運用や広報誌の発行、返書管理、医師会との懇談会の企画などを行っております。地域医療連携部門に限らず当センター職員一同、入退院支援・転院調整、患者相談など皆様と接する様々な機会を通じて、関係施設の皆様との地域連携の推進に努めて参ります。

医療福祉 相談

医療福祉相談に関すること

- 患者相談全般（療養に伴い生じる社会的・経済的・心理的問題等の調整援助）
- 各種専門相談（がん、難病、HIV/AIDS、認知症等）
- 苦情相談 等

医療福祉相談部門では、患者さんやご家族の社会的・心理的・経済的な問題等に関するご相談をお受けしております。また関係機関の皆様からのご相談もお受けしております。当院に外来通院中、入院中、これから受診予定など様々な場面における相談に対応しておりますので、お困りのことがございましたら、当センター医療福祉相談部門までお問い合わせください。社会福祉士、精神保健福祉士、難病診療連携コーディネーターが対応します。そのほか、がん診療連携拠点病院、難病診療拠点病院、認知症疾患医療センター、エイズ中核拠点病院、肝疾患相談センターの専門相談窓口もございます。お気軽にご相談ください。

入退院支援

入退院支援に関すること

- 多職種による入院前面談
- 入院受付（手続き）
- ベッドコントロール
- 転入院患者の調整
- 転院支援に関連した他病院との連携
- 在宅療養支援に関連したケアマネージャー、訪問看護師との連携 等

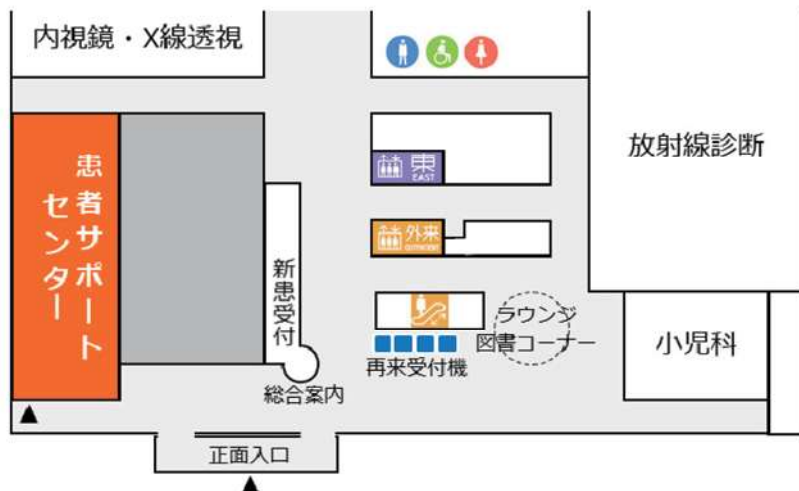
入退院支援部門では、入院が決定された患者さんに対し多職種による入院オリエンテーション・基本情報の収集・入院に関する相談・薬剤の確認・栄養状態の評価を行っております。また、入院前と入院後に退院困難な要因を確認し、病棟および多職種と連携しながら退院支援を開始して患者サービスの向上と患者個人の安心感につなげております。さらに、地域医療機関からの転院受入（一般病床・地域包括ケア病床・療養病床）と、医療・保健・福祉機関との連携も行っております。

組織紹介

■ 矢巾附属病院

〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通 2-1-1 TEL : 019-613-7111 FAX : 019-611-8071

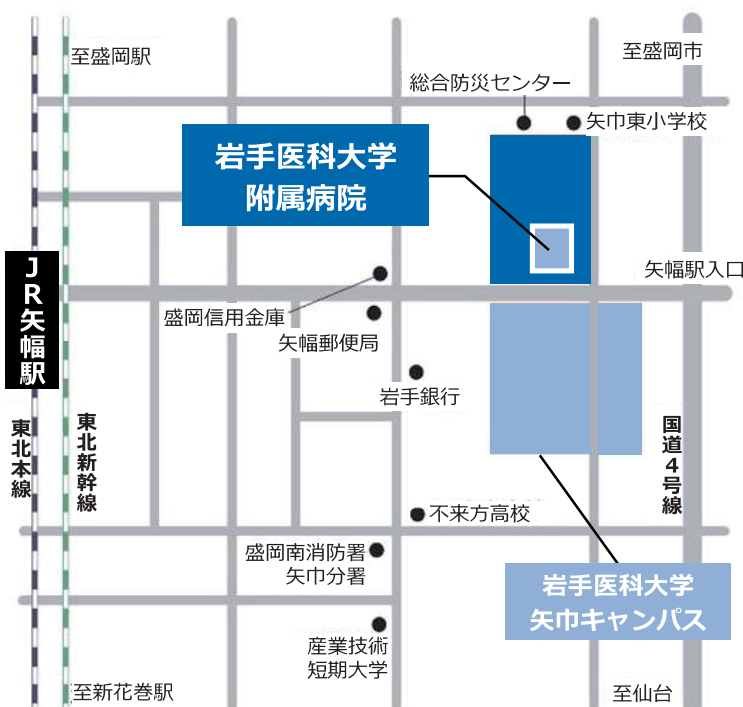
矢巾附属病院・1F



お問い合わせ先 (内線番号)

- 患者紹介 …………… 4151/4152
- 入退院支援 …… 4142
- 医療福祉相談 …… 4122/4123
- 入院手続 …… 3147

アクセス



電車

- 盛岡駅 (電車約13分)
- ▶ 矢幅駅 (徒歩約15分・1.2km)
- ▶ 岩手医大附属病院

バス

- 矢幅駅 (バス約5分)
- ▶ 「岩手医大病院」バス停下車
- ▶ 岩手医大附属病院
- 盛岡駅 (バス約40分)
- ▶ 「岩手医大病院」バス停下車
- ▶ 岩手医大附属病院

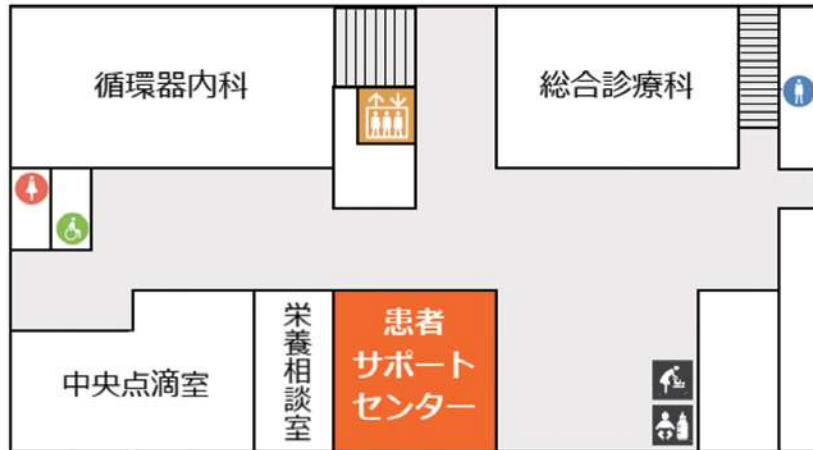
車

東北自動車道「矢巾スマートIC」から約12分

■ 内丸メディカルセンター

〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1 TEL:019-613-6111 FAX:019-622-7701

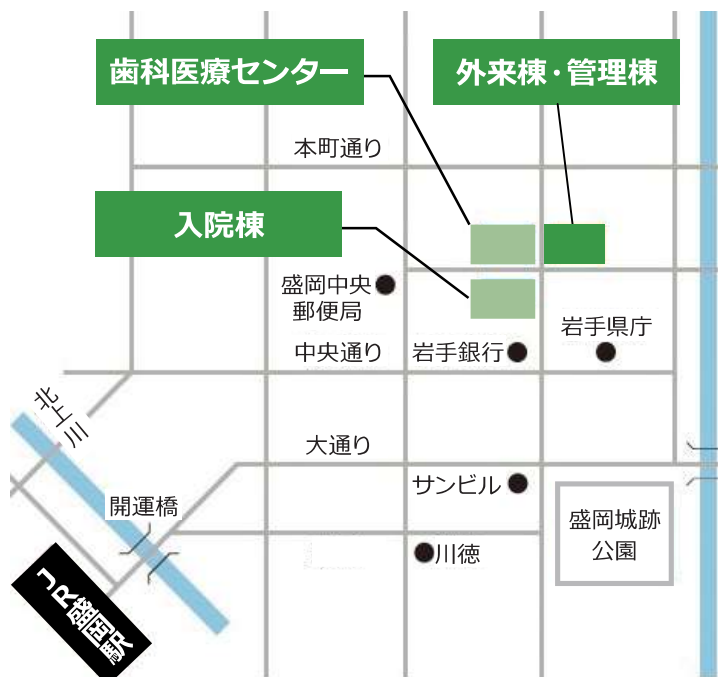
外来棟・3F



お問い合わせ先（内線番号）

- 患者紹介 …………… 2138 ●医療福祉相談 … 2390
- 入院前面談等 … 2391 ●入院説明 …………… 2392

アクセス



バス

盛岡駅 (バス約10分)
 ▶「中央通一丁目」「医大メディカルセンター前」
 バス停下車 (徒歩約2分)
 ▶内丸メディカルセンター

車

盛岡駅から約10分

徒歩

盛岡駅から約30分

矢巾附属病院および内丸メディカルセンターへのご紹介方法のご案内

矢巾附属病院および内丸メディカルセンターへのご紹介方法については、これまでもご案内しておりましたが、新年度になり診療科の移動がございましたので、改めてご案内いたします。(紹介方法に変更はございません)

①紹介先の診療科をお選び下さい (診療科によって FAX 送付先・受診先の病院が異なります。)

診 療 科		診 療 科		
血液腫瘍内科	臨床腫瘍科	消化管内科	腎・高血圧内科	呼吸器・アレルギー・膠原病内科
小児外科	形成外科	脳神経内科・老年科	糖尿病・代謝・内分泌内科	肝臓内科
呼吸器外科	頭頸部外科	循環器内科	臨床検査科	外科
心臓血管外科	小児科	脳神経外科	整形外科	婦人科 (不妊)
産婦人科	放射線診断科	耳鼻咽喉科	眼科	皮膚科
精神神経科	放射線治療科	泌尿器科	臨床遺伝科	総合診療科
緩和ケア科	麻酔科	睡眠医療科	歯科	

※4月より麻酔科が矢巾附属病院で外来診療を行います。

※詳細は同封の担当医表をご参照下さい。

※詳細は同封の担当医表をご参照下さい。

②矢印の病院にFAXを送付して下さい

矢巾新附属病院

下記 FAX 番号まで診療申込書・紹介状をご送信下さい。

患者サポートセンター (地域連携)

FAX: 019-611-8071

③患者サポートセンターより紹介元医療機関様にFAX受信確認書および予約票を返信いたします。

内丸メディカルセンター

下記 FAX 番号まで診療申込書・紹介状をご送信下さい。

患者サポートセンター (地域連携)

FAX: 019-622-7701

③患者サポートセンターより紹介元医療機関様にFAX受信確認書および受付票を返信いたします。 ※診療内容によっては矢巾附属病院への来院をご案内する場合がございます。